

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,568	t-CO ₂
①を除外した温室効果ガス換算排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素 (③を除く。)		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素 (発電所等配分前)		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量 (①~⑩合計)		1,568

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績		
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)			%		%		
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂	t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)					%		

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの排出量	241.6	t-CO ₂ / 千t	234.4	t-CO ₂ / 千t	184.5	t-CO ₂ / 千t	158.4	t-CO ₂ / 千t
削減率 (対 基準年度)			3.0 %		23.6 %			
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / 千t	t-CO ₂ / 千t	
削減率 (対 基準年度)					%			

(2) 進捗状況に対する自己評価 (目標の達成/非達成の理由)

<p>A 重油燃焼設備の廃止の効果が大きく、また事業所間の集約稼働を推進したことにより目標を大幅に達成できた。 また、R5年度よりCO2フリー電気(使用量の30%)の購入による効果も大きかった。</p>

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理／エネルギー使用量の把握及び管理	<ul style="list-style-type: none"> ・組織横断的な委員会を設置し、取組目標を設定、取組状況の確認・評価・見直し ・計測機器の導入により、使用実態を見える化 	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ、環境推進会議を1回/月開催し、エネルギー使用状況や省エネ活動の進捗を確認する。 ・電気機器ごとに計測器を取付け、機器単位のエネルギー使用を見える化する。 	省エネ活動の進捗会議を1回/月実施し、社長以下役員へ報告を実施。また、エネルギーデータの見える化システムの導入に向けて検討中。
省エネルギー・省資源の推進／空調負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> ・窓ガラスへの断熱フィルムの貼り付け等による日射負荷の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所、計器室の窓ガラスに断熱フィルムを貼り付ける。 	事務所全窓に'22年6月断熱フィルム施工完了。
省エネルギー・省資源の推進／その他	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した変圧器は、省エネ法に規定されたトップランナー変圧器へ更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置25年以上の変圧器を令和6年度までに段階的に更新する。 	令和6年度中に更新を計画も、他への投資を優先し、令和7年度へ持ち越した。
工場の製造工程における対策	<ul style="list-style-type: none"> ・製造工程の見直し・改善、新設備の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・加熱炉のダクトダンパー調整を行い、適切な炉圧制御を施し、放熱、吸熱によるエネルギーロス削減する。 	熱処理炉2基の自動炉圧制御化完了。燃焼空気予熱は設備メーカーとの調整がつかず令和7年度へ持ち越し。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・CO2別-電気の購入 令和6年度購入量 93,137kWh ・省エネおよびカーボンニュートラルに関する教育 (R6年9月)

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

毎月8のつく日を定時退社日を制定し、事務職は原則残業ゼロとしエアコンやPC等の電力消費削減を行っている。
--